

風景を描く待合所

大西港と大崎上島のもつ風土と生活の風景に呼応した4つの切妻のファサードを持ち、自らも風景をつくりながら人やものを受け止める待合所を提案します。



いろんな角度から人・もの・風景が集まる大崎上島

大崎上島のもつ場所性は何なのかを、実際に訪れて体験したことやリサーチを通して考えていきました。そして、大西港に建つ待合所としての建築のあり方の軸を見つけていきました。

■ 多島美と神峰山
大崎上島は、日本の中で最も多くの離島を見渡すことできる場所と言われており、その風景は「多島美」と呼ばれています。また、安芸津港から大西港へと向かう船からは、山々が連なる中に「神峰山」という大崎上島で最も高く、信仰の対象としても根付いてきたシンボリックな山が見えてきます。

■ 大崎上島というまちと大西港の待合所
大崎上島のまちの特性は、大西港の場所性とも相まって待合所の在り方と深く結びついています。

産業
大西港の西側には造船のためのクレーンが、また北側には発電所をもつ長島が見えます。

まちづくり
観光力を入れていて、温かみのある手書きのパンフレットは待合所でも手に入れられます。

人々の暮らし
中心街から最も近い大西港の待合所はフェリー利用の他、散歩やトイレ休憩にも利用されています。

まちと生活
多くの掲示物があったり、雑誌をしたりする待合所は生活の情報を知る場としても機能しています。

まちの人の居場所
外観と内観

情報が集まる
待合所の様子

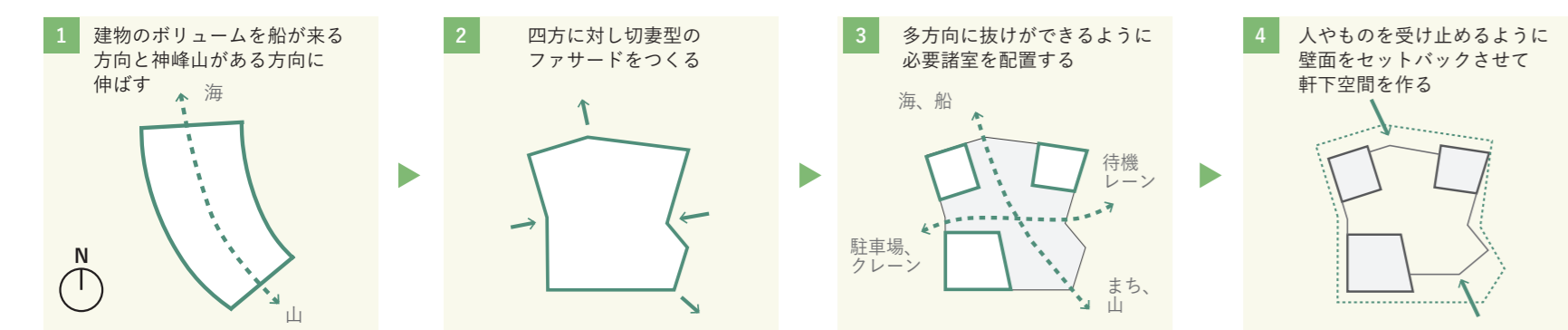
大西港の待合所は、**人々のアイデンティティとなる、いろんな角度からの風景の中に存在している、いろんな人やもの、風景がいろんな角度から見たり、集まったりする場所になっている**と考えます。

多方向性を持った待合所

大西港の待合所はいろんな角度に対して、人やものと様々な関係性を持っていることから、新たな待合所として、**多方向性を持つことで人やもの、風景を受け止める建築**を提案します。

■ いろんな角度から人やもの、風景を受け止めるかたち

敷地に対する人やもの、風景との連関から、平面のかたちを計画します。



■ 多方向からの要素を受け止め、その風景を編集し、いろんな見え方をする建築の構成

多方向からやってくる人やものをいろんなあり方で受け止めること、内から見たときには混在する要素の集まった風景を編集すること、それらが建築の空間やファサード・外構にも現れてくるような建築のあり方を目指します。

4枚の屋根
HPシェル
人やものを受け止める4つの切妻のファサードをつくる

3つのコア
倉庫コア
HPシェル
トイレコア
事務室コア
混在する要素の集まった周囲の風景を編集する

1mの基礎の立ち上がり
350mm厚の底盤
1mの立ち上がり
浸水を防ぎ、人やもののもり所をつくる

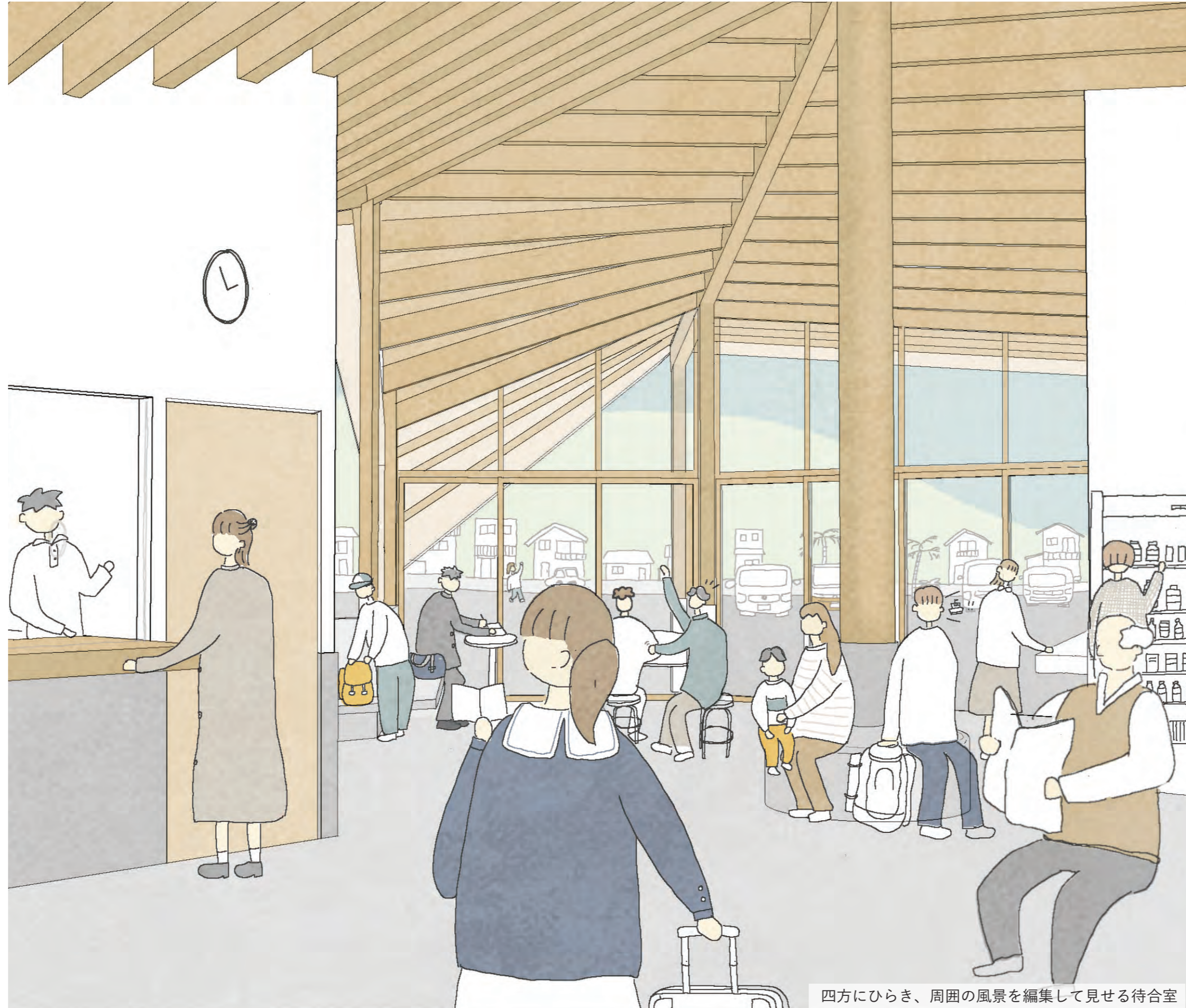
#ファサード
北西・南東面の屋根をHPシェル構造とし、まちや船から来る人々を出迎え、受け止めるおらかなファサードを作り出します。天井高が滞りかに変化し、ダイナミックさを持ちつつ包まれるような待合空間をつくります。

#コスト #環境配慮
3つのコアが内部空間から多方向にさまざまな風景を見せます。また、材料費や運搬にかかるコスト、CO2削減のため、一般的に流通するせい300mm以下、長さ6m以下の製材の使用に加え、島に多く自生するアカマツの使用を検討しています。

#防災
基礎を1m立ち上げて津波や高潮時に主要構造部が浸水することを防ぎ、350mmの厚みを持たせた底盤が建物の転倒や滑動を防ぎます。基礎の立ち上がりは人やもののもり所にもなり、内外に居場所をつくります。



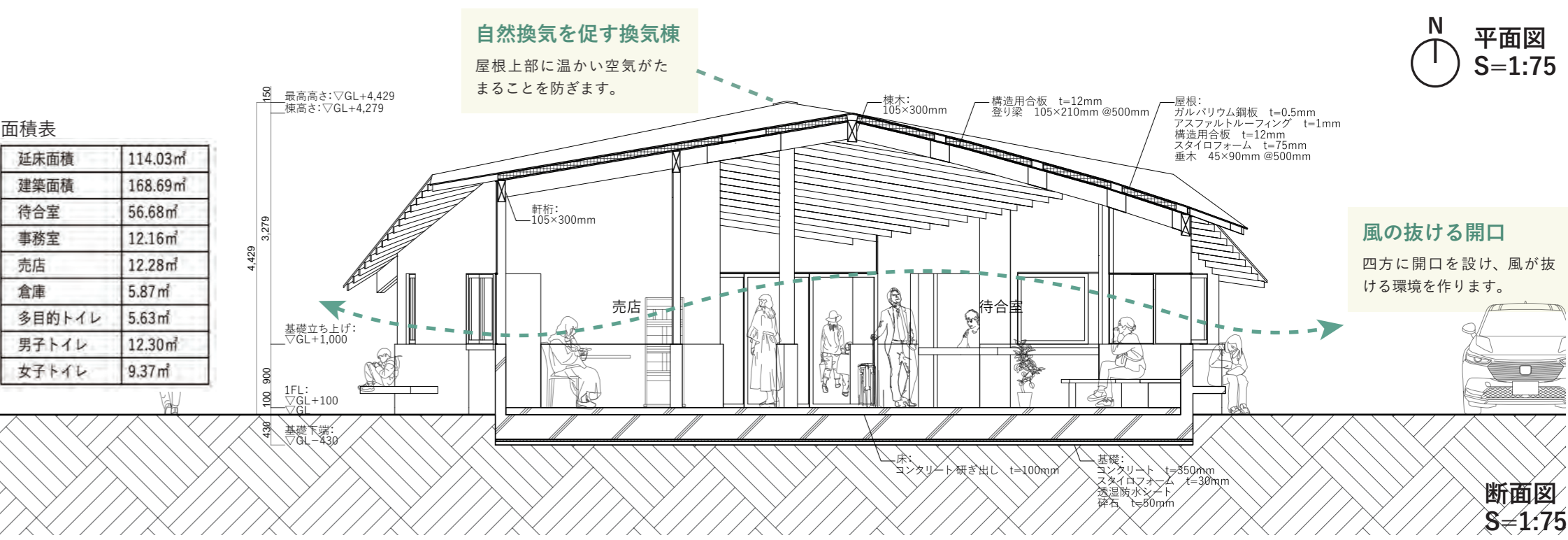
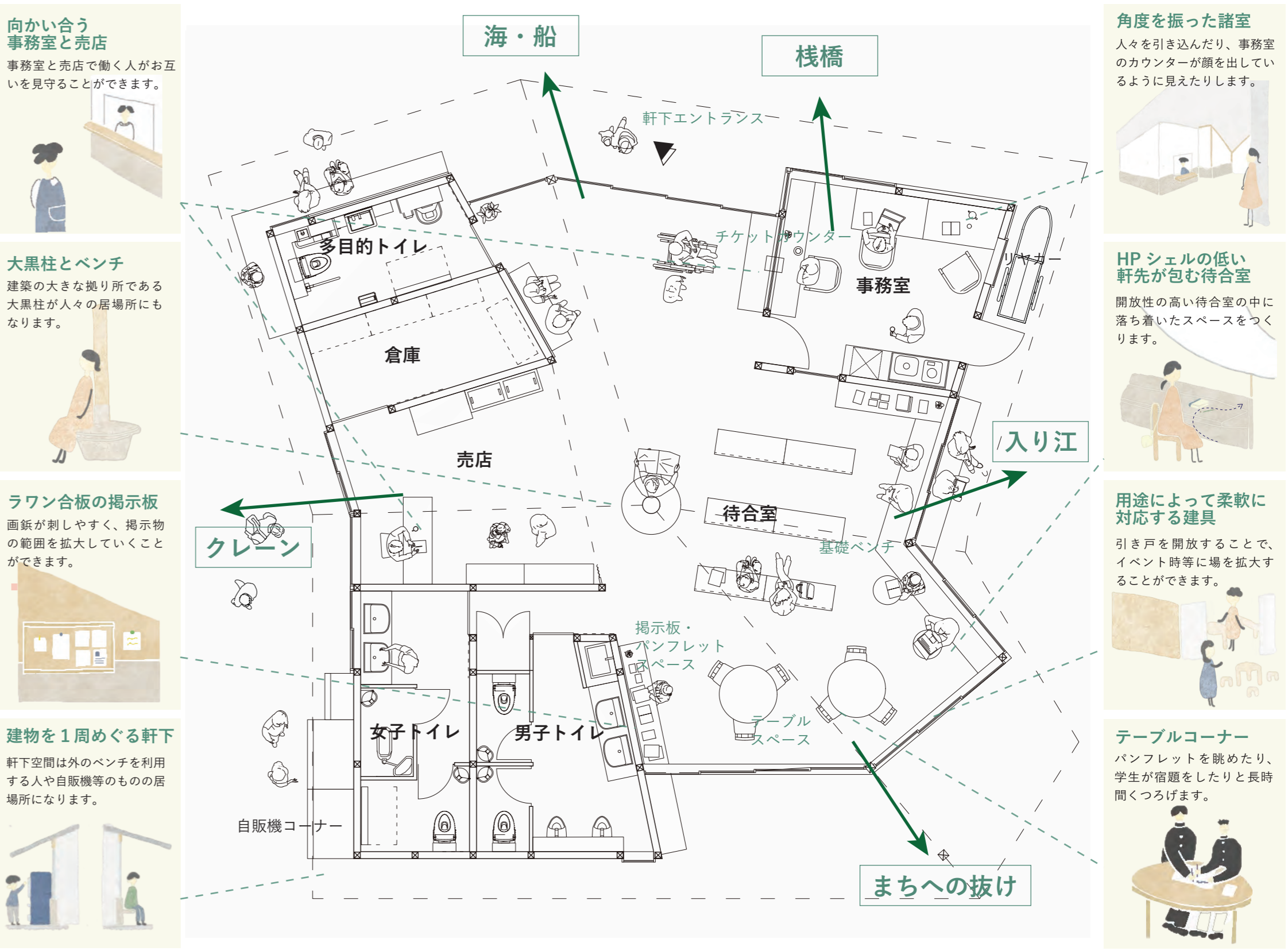
多方向からの人やものを受け止め、多様な顔を持った待合所



四方にひらき、周囲の風景を編集して見せる待合室

各々が風景を描く待合所の空間計画とその使いわれ方

待合所でフェリーを待つ大人、学生、はたらく人、散歩の途中に立ち寄って休憩する人、全ての人がそれぞれに風景を描きながら過ごす、居心地がよくて使いやすい待合所を計画します。



新しい待合所がつくり出す、大崎上島の未来の風景

大崎上島に関わるさまざまな人・もの・風景が形成するネットワークの中に新たな待合所が加わることで、既存の要素をパッシブに受け止めながらも、アクティブに活動を引き起こしたり繋がりを生み出ししたりする、大崎上島の未来へと続いていく風景が生まれます。

